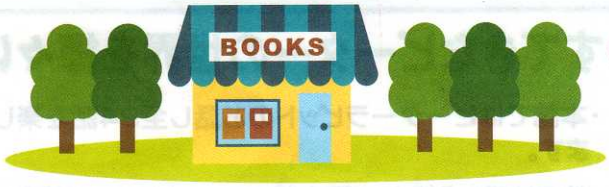
書店レポート

～パートワーク、自慢の売り方～



冠文堂書店　立地：住宅街　担当：小野ご夫妻

仙台市宮城野区福田町の住宅街にある冠文堂書店様をご紹介します。

創業は1969年。元は銀行に勤めていた小野忠敏さん、読書好きが高じての開業でした。奥様のしづ子さんに支えられて38年目を迎えます。

数回の店舗移転の後、現在は自宅を改装、ほのぼのとした可愛いお店を創られています。

7坪の店内にはピアノや読書用のテーブルが備えられ、お客様はいつでも利用可能となっています。

界隈は閑静な住宅街ですが、近くには小学校もあり、午後を過ぎると元気なこどもたち、ご近所の常連さんが次々とご来店されます。

弊社のパートワーク各誌については合計で22名の方々が定期購読されています。

忠敏さん、しづ子さんのお二人が熱心に取り組んでいるのが、読書推進運動です。

その一環として、おはなしポッケの会を主宰、お店の2階、自宅を開放し地域のボランティアの方々と協同でこどもたちに絵本の読み語りや紙芝居、ミニコンサート活動を毎月定期的に行っています。

また“かんぶんどう通信”『Bonan tagon』(ボーナン・ターゴン：こんにちは、という意味です)というコミュニティ紙を発行、時季に合わせた読書の愉しみを伝えてくれています。

～可愛いお店ですね。こんな本屋さんが近所にあったらいいですよね～

『元は応接間でしたのでピアノやしづ子さんが描いた絵はそのまま置きました。柔らかい雰囲気でいいでしょ。おはなし会はここに移ってから始めました。今年で9年目ですね。商店街にお店があった時とは違って、ここは住宅街なのでお店のPRと地域への貢献を兼ねています。』と忠敏さん。

～おはなし会の主宰は大変ですね～

『JPIC読書アドバイザーの通信教育を受け、その講習の際に“本を売るだけでは駄目なんだ”と気付き、それがきっかけで会を作りました。小学校、児童館、子育てサロンなどに出前おはなし会をしますよ。忠敏さんと仲間の方々と一緒にこどもたちと過ごす絵本の時間はかけがえのないものですね。』としづ子さん。

おはなしポッケの会の活動と共に忠敏さんはピアノやオカリナ演奏、ご家族の為に作詞・作曲を楽しんでいます。しづ子さんは紙芝居（代表作は『大豆の長者（仙台の昔話）』）を制作したり、業界紙などに論文を発表したりと活発にペンを走らせています。

本屋さんというお仕事、おはなし会のボランティア活動を通じて、世界を広げている忠敏さんとしづ子さん、お二人の深い絆にさわやかな感動を覚えました。

また、おはなしを聞かせてくださいね！

ところで、『Bonan tagon』って何語かわかりますか?
→※

※エスペラント語です。